

特別企画

- 悩んでいる人に正しい情報を!
- 組合員・地域の皆様の健康を守るため!!

専門医が本当に正しい治療を解説します!

—ひざの痛み—



JA新潟厚生連
新潟医療センター
副院長/整形外科部長
佐藤 卓

【最終回】ズバリ!あなたの膝に手術は必要か?

Q. 軟骨がすりへっているとされたけど、手術が必要?



「軟骨がすりへった」=「手術が必要」ではありません。軟骨がすりへることで痛みがやすい状態になりますが、ひどくすりへっていてもあまり痛みがない患者さんもいます。では、何が痛みや腫れの強さを左右するのでしょうか? それは、「ひざをとりまく環境」の善し悪しです。そして、その環境を左右するのは「関節への負担の大きさ」と「筋力」です。関節への負担は体重や仕事、運動量などが影響します。関節への負担が大きくて筋力が弱いと痛みは強く、逆に関節への負担が少なく筋力がしっかりしていると、軟骨がすりへっていても痛みはでにくくなります。できる範囲で負担を減らし、筋力訓練などのリハビリによって膝をとりまく環境を最大限改善させた上で手術の必要性を判断する必要があります。



Q. リハビリしたけど効果がなかった時は手術しかない?

それはどのようなリハビリをしたかによります。上に述べたような膝を取り巻く環境の改善を目指した正しいリハビリを一定期間行っても良くならなかった場合は手術を検討する必要があります。しかし、間違った方法でのリハビリや、期間が短すぎたり頻度が少なすぎたりだと本来の効果が得られていない場合があるので注意が必要です。



Q. 薬を飲む、注射を打つ、水を抜くなどをしてもよくなる時は手術しかない?



薬や注射による治療は基本的にその時の症状を抑えるための、いわば「その場しのぎ」であって、痛みの本当の原因に効くものではないと考えるべきです。また、膝に水が溜まるのは関節に炎症が起きている「結果」であって、それをいくら抜いても「原因」が無くなるわけではありません。すりへった軟骨を元通りにすることは不可能ですが、上に述べたような痛みや腫れの重要な原因である環境要素(関節への負担や筋力)を改善する治療を行った上で手術の必要性が判断されるべきです。

Q. 手術をしたら本当に良くなるの?

手術はあくまで最終手段ですが、上に述べた適切な外来治療をしっかり行って、その効果を十分に見極めた上で手術を行った患者さんは皆さんとても良くなります。また、外来治療期間は患者さんが疾患や治療を理解することや医師との信頼関係を築くためにも非常に大切です。手術が必要かどうかは、適切な外来治療ができる施設で、専門医が最終的な判断を行うべきです。



※受診をご希望の方は、新潟医療センター地域医療連携室(電話:025-232-1216)に連絡して予約をした上で受診してください。